

オーオオーオオオーオオー  
アイヌ ニシパ アイヌの物持ちの方が  
イレシパ キ ワ 私を育て暮らしている  
オカアン ヒーケ 一匹のオオカミが私で  
イイペーレー コロ 私に食べさせる時は  
オキタルンベ ソ カラ ワ 模様付きのござを敷き  
パッチ フーライエ 漆塗りの木鉢を洗い  
エウン イイペーレ その木鉢で私を食べさせ  
オカアーナイネ 私は暮らしていた  
オーオオーオオオーオオー  
タネ アーナクネ 今は私も  
ポロアン キー コロ 一人前のオオカミになり  
アコロ ニーシパ 私の主人が  
アドラ キー ワ 狩りに行く時  
エキムネアン コロ 私も一緒に山に行き  
ユクノニーシパ シカを獲ったり  
カムイノニーシパ クマを獲ったり  
アエアウナルーラ 私がすると  
アコロ ニシパ 私の主人は  
ヘル クーワンノ 簡単な仕事  
イリエイトーラ 皮剥ぎだけを  
キ コロ ネーシ 仕事にして  
ケシト アン コロ 毎日のように  
オカアーナイネ 私は暮らしていた  
シネアントー タ ある日のこと

オーオオーオオオーオオー

シネアントー タ

ある朝のこと

エキムネアン アー ワ

狩りのために

アコン ニーシパ

狩り場へ行き

エトコー ワ

主人が来るより

パサン カーネ

先に走って

テレケアン カーネ

走るように飛ぶように

アラパアーナー ワ

狩り場へ行くと

アイリペドナーカ

私の仲間の

チサオクータ

オオカミたちが

エネ イーターキ

たくさん出て来て

タント シーネー ト

今日一日一緒に走ろう

シノタン ヒーケ

一緒に遊ぼう

オーオオーオオオーオオー

ハウエオカー ナ

そのように言うので

ヤイヌアン ヒーケ

考えてみると

オハイネ カーネ

いまが今まで

シノツ ポカイーキ

遊びというものに

アエラミシカーリ

まったく知らずに

イランマテ パーテク

狩りばかり

ケシト アンー コロ

毎日のように

ケシパ アンー コロ

毎年のように

アキ コロ アーナン

して暮らしていた

ヤイヌアン クース

そう思ったので

アイリペドナーカ

私の仲間の

アドラパ ヒーネ

ド イウオロ ソー カ

レ イウオロ ソー カ

アオシノツ ロク アイーネ

オーオオーオオオーオオー

オヌマン カーネ

サナン コローカ

ソモ スイ クース

イレス ニーシパ

イキ クーニ

アラム アー ワ

アフナン アー ワ

エネ イーターキ

タン ウェン セータ

シルン ウェン セータ

タント シーネー ト

ネプ エーカラ ワ

ユク チーコイーキブ

シネプ カ エーサク

エイワク ルーウェ

イタク トーラーノ

シアペーケシ

テクサイカーレ

イキッキク ア ヒ パーテク

ホマッターカーネ

オオカミたちと

二つの狩り場を

三つの狩り場を

遊びまわって

夕方になってから

あの家へ帰って行くと

まさかにも

育ての主人が

そうするとは

思わなかったのに

私が入ると

言った言葉は

この悪い犬が

腐った犬めが

今日一日

なにをして

シカの一頭も

持たずにこの家へ

帰って来たのか

言葉とともに

薪の燃え尻

さっと手に持ち

私をなぐった

そのことだけを

アウウェオーマンーテ	夢のように覚えているが
オーオオーオオオーオオー	
ライ　へ　ネーイー　ヤ	死んだのか
モコロ　へ　ネーイー　ヤ	眠ったのか
オホンノ　セータク	かなり永い間
アエコソラーム	私の思いが
シツネ　アイーネ	千々にみだれ
コヤイシーカールン	やっとの思いで
アキー　ルーウェ	気がついて見てみると
ソモ　スイ　クース	まさかにも
インカラン　クーニ	このようにされているとは
アラム　ロック　ワ	思いもしなかったのに
チヌウェムソ　カー　タ	塵を捨てた塵の上に
ラヤソ　シーリ	死んだ死体が
アイヨスーラ　ワ	投げ捨てられて
アナソ　ルーウェ	いるのであることに
オーオオーオオオーオオー	

出典：萱野茂「ホロケウ　コタンコロクル（オオカミ神と村おさ）」『萱野茂のアイヌ神話集成第2巻　カムイユカラ編Ⅱ』ビクターエンタテインメント株式会社（1998）p.58-89、話者は平賀さたもさん

※一部抜粋

※一部表記を変更している